

# かながわの交通

2021  
7月号

交通安全年間スローガン受賞作品（警察庁長官賞）

～一般部門A～ 運転者（同乗者を含む）へ呼びかけるもの

## スピードは 視野も心も 狹くする



夏の交通事故防止運動等のポスター



### 道路横断には気をつけて！

高齢歩行者の事故が増えています。

油断大敵！ 運転者も歩行者もルールを守って  
交通事故防止に努めましょう！

歩行者  
事故  
多発！

○県内の交通事故発生概況（令和3年6月末現在） ○県人口・運転免許人口

区分	発生件数	死者数	傷者数
令和3年	10,559	52	12,105
令和2年	9,334	71	10,844
増減数	+1,225	-19	+1,261
増減率	+13.1%	-26.8%	+11.6%

	総数	男	女
県人口	9,246,429	4,588,428	4,658,001
免許人口	5,644,718	3,211,706	2,433,021
割合	1.6人に1人	1.4人に1人	1.9人に1人

(県人口は令和3年6月1日、免許人口は令和3年5月末現在)



ホームページ



# 夏の交通事故防止運動



期

間

7月11日(日)~7月20日(火)の10日間

目 的

夏のレジャーなどに起因する過労運転や、夏特有の解放感による無謀運転などにより交通事故が多発することが懸念されることから、県民一人ひとりが交通安全について考え、交通ルールの遵守と交通マナーの向上に取り組むことを通じて、交通事故防止の徹底を図ります。

スローガン

**安全は 心と時間の ゆとりから  
交通ルールを守って 夏を楽しく安全に**



重 点

- 1 過労運転・無謀運転の防止
- 2 高齢者と子どもの交通事故防止
- 3 自転車の交通事故防止
- 4 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- 5 二輪車の交通事故防止
- 6 踏切の交通事故防止

## ご挨拶

公益財団法人神奈川県交通安全協会  
専務理事 長澤 嘉信



公益財団法人神奈川県交通安全協会の専務理事に就任いたしました長澤でございます。

神奈川県交通安全協会は、昭和23年3月に発足以来、民間における交通安全活動の中核的な推進団体として、県民の交通安全意識の普及と交通事故防止に多大な成果をあげてまいりました。

この歴史と実績のある当協会の専務理事に就任させていただき、その責任の重さに身の引き締まる思いでございます。

県や県警察のご指導のもと県民の皆様をはじめ関係機関、団体の皆様のご支援、ご協力をいただき仕事を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、県内における交通事故の状況でございますが、昨年、発生件数、負傷者数は前年に比べて減少致しました。亡くなられた方は140人で過去最少であった令和元年は上回ったものの、それに次ぐ少ない人数であります。今年は6月末で発生件数、負傷者数は前年同期比を上回っており、亡くなられた方は19名減少しておりますが、高齢者が関係する死亡事故は全死者数の48.1%で歩行者の事故にあっては78.6%を占めています。

また、コロナ禍の中で二輪車、自転車の関係する事故も後を絶たず、依然として厳しい状況が続いております。

本年は、第11次神奈川県交通安全計画(5ヵ年計画)の最初の年であり、当協会といたしましては、今後の新型コロナウイルス感染症等の状況や県内の交通情勢を踏まえ、地区交通安全協会と一体となり、県、県警察をはじめ関係機関、団体のご支援ご協力をいただき、交通事故のない安全で安心な社会を実現するための取組を進めてまいる所存でございます。

皆様方のご支援とご協力をお願い申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

## 二輪車交通事故防止強化月間の実施結果

6月中、神奈川県交通安全対策協議会が主唱して「運転に ゆとり やさしさ 思いやり」をスローガンに、二輪車事故防止と二輪運転者の交通安全意識を高める運動を県民総ぐるみで推進しました。



(泉交通安全協会)



(都筑交通安全協会)

二輪車の関係する事故は、6月末現在の発生件数、負傷者数はいずれも昨年より増加傾向ですが、死者数は減少しております。6月中は発生件数、死者数は増加しましたが、負傷者数は減少しました。

6月末現在の二輪車関係死者数の構成率は、昨年39.4%でしたが、今年は34.6%で減少しています。

### ◎県内の二輪車交通事故発生状況(概数)

	6月 中			6月 末		
	発生件数	死 者 数	負傷者数	発生件数	死 者 数	負傷者数
令和3年	500	5	461	3,022	18	2,727
令和2年	497	4	462	2,790	28	2,534
増 減 数	+3	+1	-1	+232	-10	+193
構 成 率	37.9%	71.4%	23.1%	28.6%	34.6%	22.5%

※ 構成率は全交通事故件数、全死者数、全負傷者数に占める二輪車交通事故の割合

## 二輪車交通事故防止 注意してください

**二輪車の特性に注意！！**

実際よりも  
遠く・ゆっくり走行している  
ように錯覚する

車体が小さく  
**死角に入りやすい**

「行くんだろう」は事故のもと  
先に行かせる心のゆとりを！

死角に二輪車がいるかも？  
「かもしれない」運転で事故防止

的確な意思表示と確実な目視確認で  
交通事故を未然に防ぎましょう！

神奈川県警察

**サンキュー事故に注意！**

交差点で右折時

商業施設へ進入時

この事故パターンにも注意

進路変更時

主道路へ合流時

神奈川県警察

## TSマーク貼付推進優秀自転車安全整備店の表彰 (令和2年度中)

サイクルオリンピック…… 川崎鹿島田店、鶴見中央店、東戸塚店、

綱島樽町店、平塚湘南店、今宿店、

港北ニュータウン店

スパーク ………………瀬谷店、十日市場店

ダイワサイクル ………………幸店、宮前店、相模原店、川崎多摩店、  
青葉店、川崎野川店



点検整備に伴うTSマークの貼付推進を通じて、自転車の交通事故防止と被害者救済に貢献したTSマーク貼付推進優秀自転車安全整備店として、本県からは15店舗が選ばれました。



各店舗には県協会の小島事務局長等が赴いて、(公財)日本交通管理技術協会からの感謝状と副賞を店長等に伝達(写真)したところ、

(川崎鹿島田店)

「自転車条例により、自転車保険への関心が高まっています。これからもTSマークの普及を通じて自転車の交通事故防止、補償等についてアドバイスをしていきたい。」など受賞の喜びを語っていました。

免許更新時に  
**75歳以上**になる  
ドライバーの皆さん！  
運転免許センターで  
**認知機能検査**  
が受けられます！

- \* 誕生日の5か月前から予約可能
- \* 早期検査で高齢者講習の予約が便利

最寄りの自動車教習所でも受けすることが出来ます

### 予約・お問い合わせ

電話 **045-367-3871**

受付時間 8:30~17:00 (平日)

### 予約は電話でOK

横浜市旭区中尾1丁目1番1号  
運転免許センター  
(相鉄線二俣川駅からバスで5分)

令和2年度 交通安全ファミリー作文コンクール入賞作品の紹介

《小学生の部：優秀作（国務大臣・国家公安委員会委員長賞）》

自分の命は自分自身で

神奈川県横浜市立すみれが丘小学校

六年 上月 優果（敬称略）

私の母は、毎朝、登校する子供たちのために旗ふり活動をしています。そこは、私たちの通う小学校の校区内で一番危険な横断歩道とされる場所です。きっかけは、八年前に京都府の亀岡市で登校中の児童の列に車がつっこみ十人が死傷した事件だそうで、全国で通学路を点検することとなり、当時校外委員長をしていた母が中心となって旗ふり活動を始めたんだそうです。夏の暑い日は汗びっしょりになって、大雨の日は ずぶぬれになって、子供たちに

「おはようさん。」

とあいさつをした後

「右見て、左見て、右見て。確認したら手をあげて渡ろうね。いってらっしゃい。」と大きな声をかけながら、黄色い旗で車を停めて、子供たちを渡させてくれます。

そんな母の影響もあって、道を横断する時は必ず手をあげて渡る習慣がつきました。手をあげるのは、「今から道を渡るぞ」という意思をドライバーに伝えるためであり、小学生の私たちを少しでも大きく見せるためでもあるそうです。六年生になった今、手をあげて渡るのははずかしい時もあります。でも、六年生はみんなのお手本にならなければなりません。私が手をあげて渡っているのをまねして、低学年のお友達も手をあげるのを見ると、なんだかほこらしい気分になります。

天候によってはとても大変な仕事である旗ふりですが、母は毎日とても楽しそうです。家では朝から準備に追われて

「あー忙しい忙しい。」

と言っていますが、旗ふりの時は満面の笑み。そんな母には今、悩みがあるそうです。それは、子供たちを横断させるために旗を出しても停まってくれない車があること。横断歩道では歩行者が堂々と渡ることができる場所なので、車は停止しなければならないルールがあるので、ドライバーも朝は急いでいるのか停まってくれない時があるそうです。自分の住む町で交通事故があつてはいけないと、いつも母は口ぐせのように言います。

このように、私たちのすみれが丘小学校では、毎朝見守られながら危険な交差点を登校していますが。これから先大きくなったら自分の判断で道路を横断し、自分自身を事故から守らなければなりません。見守られ、時にはしかられながら交通ルールを知り、安全に通学できることはとても幸せなことです。常に確認することを意識して、横断歩道では手をあげて渡ることをこれからも続けていきたいです。そして、自分自身も事故にあわない、「交通事故ゼロの町 すみれが丘」になるようにしていきたいです。



## 交通事故の悲劇に学ぶ⑨

## ●「後悔」

会社員(30歳)

ある年の8月上旬、母親に還暦祝いを贈った4日後のことでした。当時の私は、会社から徒歩1分程度のところにある会社の寮に住んでいました。この日は仕事が早く終わったため出かけることにし、身支度を整えました。会社の駐車場に止めている車に乗りエンジンを掛け、スマートフォンの音楽アプリを複数起動させ、車を出発させました。この時、私は既に間違った選択をしていました。

寮を出発したのは帰宅時間帯を少し過ぎた頃で、道はあまり混んでいませんでした。道中、信号待ち等で停車した際に起動したアプリを操作したり、ちょっとした飲食を繰り返し、車を走らせました。出かけ先が母の家の方面だったので立ち寄ることにしました。運転を始めてから20~25分が経過し、県境に差し掛かった辺りから車の台数が増え、混み始めました。いつもは国道の大きな通りを走り続け、母の家の数百メートル手前辺りで住宅街の道に入るのですが、この日は国道が混んでいたためいつもよりかなり手前から住宅街に入り、渋滞をすり抜けて行く道に変えました。

20分ほど走り、母の家まで後1キロメートルに差し掛かったところでスマートフォンの充電残量が50%前後になっていることに気付きました。信号を2~3個過ぎ、穏やかなカーブに入ったところで「出先でスマートフォンを使いたいけど母親の家には充電できるほどいないしな」と思いました。そして、何度も通ったことのある慣れた道であるとの安心感から「車内でのスマートフォンの充電も今の時間帯なら人通りも少ないし、普段からしている事で一瞬で終わるから」と、根拠のない過信・慢心からの身勝手な判断で、普段は停車中にしていた事を顧みることもなく、大丈夫と決め付けてしまいました。前方を何度も確認しながら片手でソケットから充電コードを取りスマートフォンに接続を試みましたが、停車中のようには上手くいかず手間取っていました。

この時期、私は夕方以降は窓を開けて走行する事が多く、この時も窓を開けていました。そのため、外から何か聞こえた気がして前を向くと、前方の横断歩道を自転車に乗った女性が横断を始めしていました。私は慌ててブレーキを踏みましたが間に合わず、運転席側正面で女性を自転車ごと撥ねてしまいました。女性の身体は浮き上がりと運転席側ピラーに頭がぶつかりガラスが割れ、女性がその衝撃で飛ばされる光景は今でもハッキリと憶えています。

私は慌てて車を降り女性の所に行きましたが、女性は脈拍を打つように痙攣をして、目は見開かれたまま焦点が合っておらず、意識がないことが分かりました。咄嗟に電話と思い、急いで車に戻りましたが事故の衝撃でドアは開かなくななり、スマートフォンも何処にいったのかわからなくなっていました。



イラストは本文とは関係ありません

頭が真っ白になり、どうやって車を降りたかさえわからなくなっていたところ、通りかかった方々に電話をしていただきました。

女性の所に戻ると、脈拍に合わせて吐血をしており、為す術もないところに救急車が到着しました。間もなくパトカーも到着し、私は現行犯逮捕され、翌日の夕方に釈放され、後日在宅起訴となりました。

取調べに入り、私はやっと頭と感情が追いつき、自分したことがあり返しのつかないことだと実感し、後悔するばかりでした。釈放後、女性が意識不明の重体と知らされお見舞いを希望しましたが、面会謝絶で一週間後に来る親族を待つまでの延命が限界と告げられました。海外の親族が到着し、葬儀が事故から2週間目に行われました。葬儀への参列や日本に来て頂いた親族との面会を希望していたのですが、私に知らせが来たのは葬儀が終了した午後のことです。面会していただいたお姉さんへの謝罪しかできませんでした。被害者の女性は私の2つ年上の29歳でした…。

その後、裁判で道路交通法違反・自動車運転過失致死罪で禁固2年6月の判決を受け、市原刑務所で受刑生活を送っています。改善更生の指導を受け悔悟の日々を過ごし、「償いとは何か」「償いに終わりはないこと」、急いで答えを出そうとしてはいけないこと等を学んでいます。御遺族と示談が成立し、刑期が終われば刑事・民事・行政の三つの責任が果たされたことになりますが、それで罪が消える訳ではなく、一生背負っていかなければいけないです。加害者は逃げることができます、被害者は逃げることができないです。

私はこの罪で家族や会社、被害者の方々、多くの人を不幸にしました。人は失敗や後悔をして成長します。しかし、私のように後悔してからでは遅いこともあります。少しだからと脇見や飲酒をしていませんか?私は大丈夫、誰もがそう思っています。私もそうでした。起こしてからでは遅いのです。後悔しないために初心を思い出して下さい。

## この人 183



高梨  
たかなし  
会長  
三浦市交通安全協会  
和吉さん  
かずよし



### こんにちは 田浦交通安全協会です

田浦は横須賀市の北部に位置し、田浦交通安全協会は昭和24年に発足し今年で72年になります。狭いエリアですが、人も環境も素晴らしいとしても平穏な地域です。商店は国道沿いに点在し、住宅は国道沿い、古くからある谷戸、山を切り開いた住宅地に点在しています。

東京湾沿いには、住友重機械工業横須賀製造所や日産自動車追浜工場など大小約80の会社工場と海上自衛隊の施設があります。風光明媚も自慢のひとつで、「田浦梅の里」「南郷公園の桜」に代表されるように自然を楽しむ場所も多くあります。毎年観光協会主催による「南郷公園桜まつり」では、

三浦市交通安全協会加入歴28年、会長歴17年、今では三浦市交通安全協会の唯一無二の存在となりました高梨和吉会長をご紹介します。

会長は、警察署、市役所、各種関係機関・団体との連携を密にし、持ち前のバイタリティーを發揮して、コロナ禍で変わってしまった新しい生活様式に合う交通安全運動やキャンペーンをいち早く取り入れ、三浦市の交通安全向上的思想の普及に尽力しています。

交通安全協会の活動をリードするこうした姿勢が、各種団体役員などからの信頼に繋がり、関係機関・団体の協力体制も確固たる密となっております。

高梨会長は、これまでの交通安全活動の功労が認められ、平成28年に交通栄誉章緑十字金章(功労者)を受章、令和元年に警察庁長官警察協力章を受章するなど数々の賞を受賞されております。

また、多忙な交通安全活動の傍ら、各種ボランティア活動にも尽力しており、自らが栽培する野菜を、福祉団体に提供しております。

三浦半島の最南端に位置する三浦市は、海の幸と大地の恵みが豊富な、温暖で自然豊かな土地です。青々とした一面の畑の向こうに海が広がり、その先に富士山を眺める場所や、海を走行するタンカーの先に千葉房総半島が望める場所など、インスタ映えスポットが多数あります。

コロナ感染症予防対策で、世界中で外出自粛が求められておりますが、息抜きドライブに来る観光客が急増しております。

会長には、今後とも健康に留意され、三浦市の交通安全のためにご活躍いただきたいと思います。

(取材協力：三浦市交通安全協会)

関係団体とともに国道16号線で「交通安全パレード」を行い地域住民・通行車両に交通安全を呼びかけています。近年、追浜公園内に「DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKA」が完成し、横須賀スタジアムと合わせて野球への盛り上がりを見せています。

田浦警察署管内の交通事故は、年々減少しており昨年は前年より12件少ない109件と減少しています。また、交通死亡事故は、平成29年11月の発生を最後に、交通死亡事故ゼロの日が続いており、6月18日現在で1297日を継続中です。

本年の取組は、田浦警察署が



上げている、①二輪車の事故防止、②横断歩行者の事故防止、③高齢者と子供の事故防止、④自転車の事故防止の四つの交通事故防止総合対策を中心に田浦警察署、関係団体と協力し、交通死亡事故ゼロの継続並びに交通事故防止に取り組んでいきます。

(伊勢田 記)

# 地区交通安全協会の活動紹介



**海老名市** 海老名駅周辺での自転車マナーアップキャンペーン



**中 原** 今井南町周辺での自転車マナーアップキャンペーン



**津久井** 鳥居原ふれあいの館での二輪車交通事故防止キャンペーン



## 葉山町 長柄小学校での自転車安全教室



神奈川 警察署前交差点での二輪車交通事故防止キャンペーン



### 保土ヶ谷 警察署前での自転車街頭点検



警察署前の自転車ナーフィアップキャンペーン



大 船 警察署前での二輪車交通事故防止キャンペーン

## 賛助会員の紹介

このコーナーでは、(公財)神奈川県交通安全協会の交通安全活動に賛同し、賛助会員としてご協力をいただいている企業等を順次ご紹介しています(敬称略)。

- 神奈川日産自動車(株)法人部 横浜市西区花咲町
  - (株)横浜高島屋 横浜市西区南幸
  - (株)バンテックSQC推進部 横浜市西区みなとみらい

### 賛助会員入会のお願い

公益財団法人神奈川県交通安全協会では、交通事故のない安全で快適な交通社会を実現するため様々な交通安全事業を行っております。交通事故防止活動に賛同していただける「賛助会員」としての入会をお願いいたします。